

南置賜郡万世新道ノウチ瀧ノ沢東ヨリ栗子隧道西口行在所ヲ望ム図
(没後100年高橋由一展より)

萬世の大路

第6号

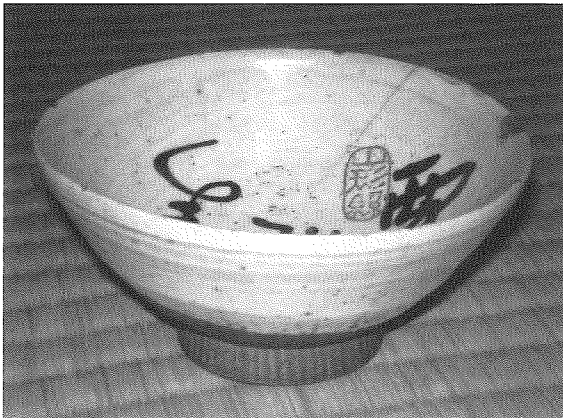
平成21年3月30日発行

発行者

歴史の道万世大路・万歳の松保存会
会長 田畑 實

事務局

万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381



この陶器は明治14年10月3日の開通式で配られたもの。(栗子隧道成就)山形県の印があり2,000個作らせ、引出物とした。(口径9.5cm・高さ4.5cm・糸尻高0.9cm)

電信柱と行在所

明治天皇が明治十四年十月三日、米沢市を早朝出発し栗子隧道西口に着いたのは午前十時であった。天皇は桑山観音原、川越石の官宅で休憩をとり、官宅からは板輿に乗り替えられた。

栗子隧道西口に建てられた行在所の玉座と御次の間には、洋画家高橋由一が描いた大久保利通卿と上杉鷹山公の肖像画、並びに栗子隧道の図を陳列した。

上の絵はその行在所を望む絵である。電柱のように建てられたものは、電柱である。電柱と思われるが、まだ発電技術がなかったため電気は流れていない。打電機からの信号だけが通じている。この電信柱は現場と川越石の官宅の間の通信のため建てられたものである。

この栗子隧道西口には松島屋という旅館があり高橋由一画家が泊まったと記録されている。

この道路は荷馬車が通る道路として建設されており、勾配が一様(二対九)で、八百六十七メートルの長い隧道を掘削した近代土木技術の遺産である。

※行在所Ⅱ(あんざいしよ)天皇行幸の際の飯の住まい